

学びを 子止めるな



Illustrated by Takashi Inui

第60回(2021年)
全国保育問題研究集会
東京集会(オンライン)
実行委員会

〒113-0033
文京区本郷 5-30-20
サンライズ本郷 7F
TEL 03-3818-8026
FAX 03-3818-8026

東京集会(オンライン)大成功!! みなさんありがとうございました!! 参加者の感想を紹介します!!



記念講演

- ・保育所保育指針はだれのため?子どものためじゃないの?小学校の先生?「10の姿」の違和感がすっきりしました。知ることで学ぶことの大切さを実感した講演でした。(匿名)
- ・大宮さんと汐見さんの対談はとても面白かったです。特に、子ども目線の評価、すなわち、子どもと保育者が振り返りを重ねながら評価していくというのは、とても納得しました。なるほど!です。保育の評価の考え方の参考になりました。大変興味深いお話でした。(塩田桃子さん)

乳児

- ・泣いたり、押したり、落ち着かないなと思ったり、大人から見ると気になる行為の裏にも、必ずその子にとっては意味や理由があるんだなということに改めて気付かされ、子ども理解は、大人視点からでは見えにくい、見えてこないんだなと思いました。
- 子どもの心を知っていく努力を日々保育の中で、またこうした学びの中で深めていけたらいいなと思いました。(望月誉心さん)

集団づくり

- ・集団づくりの分科会に参加させていただきました。いろんな保育観に触れることで自分の保育も振り返ることができ、自分のクラスの子どもたちを思うと、次の日からこうしてみよう!のワクワクが止まりませんでした。まずは小集団の中で自分の思いを出す経験から、相手に認められる経験を改めて重ねている子どもたち(4歳児)です。
- 特に、面白い!の中で自分の思いを出していき、友達と繋がり合う姿があります。2歳児、5歳児、職員集団とたっぶり聞かせてもらったことでそれぞれの「集団って?」を、改めて考えることができました。
- これからも子どものナンパ?を、見逃さず一緒に楽しめる私でありたいと思っています。ありがとうございました。(匿名)

身体づくりー運動

- ・全国のいつもの顔ぶれを見て、元気を貰いました。ゲームなのでいつもの全国集会、とまではいきませんが、全国集会の雰囲気を感じられて嬉しく思います。運営、準備等ありがとうございます。身体づくり分科会のボールを使ったあそびは沢山実践の可能性が残されていて面白いと思いました。明日も楽しみです。
- (信州保問研 千葉直紀)

認識と表現ー文学

- ・今、4歳児の担任です。今回の実践報告を聞いてクラスの子どもたちの姿も浮かび、とても勉強になりました。発達の特徴を念頭に持ちながら、絵本の捉え方から子どもたちの発達を丁寧に読みとったり感じとれることや、文学に思いを寄せて感じたり考えたりする中で友だちの思いを知っていくこと、関係づくりに変化など、お聞きして自分も実践に取り入れてみたいと思いました。
- 子どもたちが劇をする上で何を大切にしていくのか、遊びの広げ方や子どもたちと一緒に表現方法を考え作り上げていく楽しさ、セリフだけではなく体で心情を表現したり、主人公(桃太郎)の気持ちを通していろんな登場人物に気持ちを寄せていくことなど色々学びが沢山ありました。(西川恭子さん)

あそび

- ・楽しかったです。冒頭でもお話にありました通り、集まってあーだこーだ話し合えるというのは当たり前じゃなくなったとたんに奇跡だったんだと私も思いました。ごっこ遊びについての話が多く上がっていて、自分もちょうどカエルの世界に浸ってもらおうと試行錯誤しているところだったので、考えることが多く大変勉強になりました。
- 特に、「ごっこ遊びにおける幼児の主体性と教師の意図性」とか、「怖い体験は必要か」「子供の憧れを創り出すには」「偽物の体験でも本物の思いは残る?(要は子供がどこまでごっこだと認識しているのか、メタ認知的な話なのか)などと思いました。じっくり考えてみたいと思います。
- 時間がもう少しあれば、運営委員の先生方の対談みたいな時間も欲しかったです。貴重な機会をありがとうございました。私は石川保問研にはまだ入っておらず、季刊誌だけ購読しておりますが、コロナが明けたら入りたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。(草場勇介さん)

身体づくりー食

- ・初めて「食」の分科会に参加しました。びっくりです!給食室から子どもたちを元気にしたいと仕事されていることに感激しました!うちの保育園で出来る事はしたいと思いました。
- そして、全国の皆さんがコロナ禍の中で悩み、学び、保護者、地域の方々まで、支援されている姿にまた感動でした。日曜日が楽しみです。職場の仲間たちに報告します。(匿名)



認識と表現—美術

・今回も、提案者の方の実践報告で勉強させて頂きました。また、参加者の方々のたくさんの意見も飛び交い、色々な見解を知り、その上で、枠にこだわらず、広い視野で子どもたちを見守り、保育していきたいと改めて思いました。

また、前回提案者ということで、発言させてもらえる機会もあり、自分の中でもより一層描画・制作の取り組み方について考えることができました。2日間ありがとうございました。(匿名)

認識と表現—音楽

・zoomでも、分科会ができたことの喜びがあり、出会い、学び会える喜び。昨年は、新型コロナウイルスにより、これまでの日常が通用しない中、できないではなく、こんな時こそそのワクワクを子どもたちにと、持ち前の発想力と展開力を発揮する保育士たちのたくましさに感動。

提案保育園でもあり、事前に職員会で提案の内容を確認しあう。担任がたくさん悩み、話し合い、これでいいのかを、いつも問答していた。その保育を提案しようと、話し合った。当日、パワーポイントにて映像や音源の形がきれいにまとまることで、結局、届いたものが『これ、やりました』となってしまった感がある。自園の職員より、『3本の提案は丁寧に実践が取り組まれた事は伝わったが、聞き手が何を深めるか難しさがあった。』

やったことは伝わってきたが、生活と音楽をつなぐ保育が見えると良かった」との意見が出された。その話し合いを創るのが運営委員の役割だと思う。(栃木保間研 藤波陽子さん)

※紙面の都合上、感想を抜粋して掲載させていただいています。

保育時間と保育内容

・実践の発表が実際の子ども姿を通しての発表であったため、保育について広く深く考えることができました。もっと知りたい、そんな時間になりました。(山崎正明)

・提案が1本でしたが、写真・動画も含めた提案で子どもによりそった内容で、皆さんと話し合うことに結びついたように思います。日程(半日を2日)もよかった。参加者から保育している中での悩みなども出され、話し合いました。(横井洋子さん)

保育政策と保育運動

・「権利としての保育」の実現に向けて悩みながら奮闘されていることが伝わってくる三つの報告で大変勉強になりました。また、コロナによる登園自粛がかえって「ゆとりある保育」を可能にしたことで、日常の保育実践が「ぎゅぎゅ」の中で行われていることの自覚化につながったなど、皮肉な保育の様子も垣間見ることができ、保育政策の今日的な矛盾についても強い印象に残りました。そのうえで、どの子の育ちも公が責任をもつことの重要性を再認識することができたことが自分にとっては大きな収穫でした。

そして何より日々誠実に少しでも子どもたちの育ちにつながるような保育実践を模索されている素敵な保育士や園長さんのお話をオンラインとは言え、直に伺うことができたことはたいへん有意義なことでした。ありがとうございました。(東京保間研 松下丈宏さん)

乳幼児期の平和教育

・初めて参加した分科会でした。提案者の皆さん運営委員の皆さんお疲れ様でした。大変興味深い内容でした。勉強になりました。最初のウインフィールドさんのお話の中で、近年文化で満たされる子ども達が少なくなっている。本当に共感します。保護者にも感じます。人格をけなすような言葉、本当に傷つきますね。

私もここ何年か保護者対応に心折れる日々です。コロナ禍で不安が増大されあたりどころがないのでしょうか。そのような中でも、昨年度の卒園期の子どもたちに読み聞かせをする中、もっと、もっとと目を輝かせる姿に文化の大切さを痛感しました。まだまだコロナは収束しそうなものですが、保育園の中で、出来る限りのあふれるばかりのすてきな文化で子どもたちを包んであげたいですね。

古い童心社の紙芝居「のばら」と一昨年出たアーサー・ビナードさんの「ちっちゃいこえ」おすすめですよ。

(北埼玉保間研 新井理恵さん)

認識と表現—科学

・初めて分科会(科学)に参加させていただきました。聞いていてワクワクするような貴重な実践報告が聞け、勉強になりました。特に保育者として「あっ、これ面白そう」「(子どもの発想を聞いて)こんな風に思うんだ」ということに気づき、その気づきを実践の形に結びつけて保育されている姿が印象的でした。

議論の中でも「思考過程をふませる」という話がありましたが、その前段階で「思考過程をふませよう」とするアンテナみたいなものが保育者の方々にあり、それが実践に表れていて、今回の報告の語りにつながっているんだと感じました。

一つの活動にもくもくと集中させやすい活動である科学的な活動の意義を明確にできたなと思いました。ありがとうございました。(匿名)



保育計画

・保育者の計画に合わせた保育活動にこだわるのではなく、子どもの今の思いをどう現実化し、切り開いていくかを中心に、行事や活動内容を見直された実践内容を共有できて大変学びになりました。(匿名)

障害児保育

・提案者の話を聞きながら、共感することも沢山ありました。日頃から、個と集団を引き離さない保育を心掛けていますが、今4歳児クラスで担当しているイヤイヤ期真っ盛りの子や発達的に幼さのある子に対してや、クラスの子達の気持ちを受け止めながら保育することができているだろうか？言葉の掛け方はどうだったかな？と改めて振り返っています。

今回、渋谷先生が話された小集団への考え方を今一度自分なりに考えたり、医療的ケア児支援法のこと、情勢の事ももっと興味を持って勉強していきたいと思いました。クラス担任や職場でも分科会での内容を共有していくことで、更に突り出るものにしたしたいと思います。2日間、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。(匿名)

父母と共につくると保育内容

参加者皆さんの色々な話が聞けたし、今思っていることを自分も話せて良かったです。

保育園と父母が、保育サービス提供者と利用者という関係だけになっていくのは嫌だなあと思うっていて、そのためにどうしていくのがいいのか考えながら日々実践しています。

今日の話をまた職員たちにも紹介しながら、いろんな思いを共有していきたいと思いました。

良かったことも、困ったこともひっくるめて話していくこと、父母とも話していこうと思います。

悩んでいることも頑張っていることもみんな一緒だあと思えました。(匿名)

・ 提案を読んだ時には、この実践は島という特殊な所だから都会には当てはまらないだろうなと思っていました。でも、奥村さんの話を聞いていて違うかとも思いました。環境は当てはまらないけど、周りにいる人たちはそんなに違わない、要はこちらの働きかけだなとわかりました。

島では陰口が初めは沢山あって大変だったということ。それを上手にかわしているなあと感じました。それと散歩は地域の人たちと関わる大切な方法ということも頷けました。

地域とつながるのはこちらから打って出ることだなと再確認しました。お話を聞いていて元気になりました。コロナ禍で子ども不自由ですが、皆さん頑張りましょう！

(平松佐知子さん)

・ とても有意義な時間でした。自分の小さい頃の田舎暮らしでは、近所付き合いが今より密接で、強い信頼関係の中で「醤油をくれー」「これ食べなー」と互いに支えあっていた。今はとてもじゃないけど「迷惑がかかるから」と近所にそんなことは頼めない。そんな昔の近所付き合いのような関係が自園の職員集団にあるだろうか・・・。迷惑だなんて感じないなんて、も言い合える職員集団の中で子どもたちが密接に関わり合いながら生活する。「*歳児はこうあるべき」と大人が狙った保育をスマートにするのではなく、トラブルや困難と向き合いながらそこにいる様々な年齢の人が生活する。保育にこういった「北の国から(ドラマ)」的な形があったなんて。そんな保育をしたい！その中で子どもや職員がどう変わっていくのかが、益々見たい！と感じました。(札幌保間研 田口さん)



特別講座 A

「それはダメ!」と否定的なことばかりで大人のルールを子どもたちに押しつけていたのではないかと子どもたちの楽しい雰囲気ややりとりを大切に見守っていたかな...思う方向に誘導していなかったかな...と日々子どもたちとの関わりを振り返ることが多かったです。

(綾部ひまわり共同保育園)

特別講座 C

今、まさに、支援児に対してうらやましがったりわざと怒らせたりする子もいて、悩みにびったりの内容だったので視聴しました。支援児自身もわかっているからこそ切り替えたくない、遊びたいという思いが強くあり、散歩などやりたいことがあれば一人でもぎっちり朝の準備などします。その子が得意なことや周りが認めていけるようなことを加配担当者と模索しながら、クラス全体が認め合える仲間づくりができるような取り組みができたらと思います。

視聴しながらわからないことがあれば、動画を止めて調べてからまた動画に戻ることができ、動画での特別講座視聴は私にとってとてもやりやすかったです。(矢谷芳美さん)

特別講座 E

私には知らないことが多かったのですが、遠い昔に学生だった頃に「なんだか当時の哲学の先生が黒板に書いていたような」、かすかな記憶が蘇りつつ拝聴しました。もっとまじめに勉強しておけばよかったと、いつも繰り返して思う気分ですが、興味深いことばかりでした。メモしたことを後で深堀したいと思いました。後編を学ぶことができると嬉しいなと感じました。(西野経子さん)

特別講座 B

実際の子どもの具体的な事例に基づいての講座ということで、保育現場で働いていた自身の経験からは想像できないほどの内容でした。地域的な家庭環境の要因もあるのかと感じ、現場(幼稚園、保育所など)の地域性によっても様々な検討課題があることを知る機会となりました。

保育者は、自分の努める園の状況以外にも目を向け、学ぶ必要があるのだと感じました。

今回の事例からの講座を受け、自身の視野を広げる必要性に気付くことができました。ありがとうございました。(三島秀晃さん)

特別講座 D

伊藤さんの講座を見て、どの手作りおもちゃも作って終わりではなく、作った後に遊べて、それがとてもおもしろいのがすごいなと思いました。紙や袋などの素材に手を加えることで、おもしろい動きをしたり、その動きから遊びが広がったりすることを改めて感じました。そういうアイデアを保育者がたくさん持っていることで、子どもの姿と照らし合わせながら活動を考えるときに、幅を持つことができると感じました。

製作活動を設定する際、わたしは自分が子どもに経験させたいことを優先してしまっていることがあります。そうではなく、子どもが「楽しそう!」「作ってみたい!」と思える活動を設定したいと思いました。

(東京保間研 飯塚咲月さん)



特別講座 F

絵本で「子どもが心が動く」そしてみんなと読むから楽しくてクラスの文化を創造し、それが子ども達の思い出となっていく。絵本の時間をつなぎや導入の道具として利用しない。絵本の時間を保育計画にいれる。とても大事な事を伝えてもらいました。また、読み手として演じる事を楽しむことも大事だと再確認しました。田代さん、ありがとうございました。いつか田代さんの読み聞かせに参加したいです。

(ウインフィールドひろみさん)

特別講座 H

私が勝手に思っていた幼稚園、小学校の子どもに対する思いと、実際に講座を受けて現場の方の思いを聞くとでは随分違っていました。分野によってアプローチの仕方が変わるだけで、子どものためにを考えているといった点では一緒。

連携をするには、もっとお互いの職について知っていく必要があります。知ることにより良い連携をしやすくなると思いました。(宍藤麻理乃さん)

特別講座 J

「出来ない事を嘆くのではなく、出来る事を考えよう」私の園でもこの合言葉があるので、どの園でも子どもたちの健康を守りながら豊かな育ちを保障できるように工夫して保育をしているんだな、と勇気をもらいました。

そして「安心」と「余裕」をもたらす為に社会福祉に対して基準の抜本的改正が不可欠。大学は対面での講義が再開している。これは大学生たちの声があがったことによって実現している、(子どもたち)保護者の声は届ききっていないのではないかと聞きました。知らず知らずのうちに新自由主義の波にのまれてしまっている。という言葉にドキッとしました。待っていたらダメ！自分たちで発信していく。という事を再確認していく事が出来ました。

余裕のない忙しい毎日ですが、少しでもゆとりを持って生活をしていきたいと思いました。ありがとうございました。(たんぼぼ保育園)



特別講座 G

今の保育の原点を学ぶ機会となりました。育児担当制の討議など、わらべうた保育で一人ひとりをどう安定させていくか、新入時の受け入れの負担の大きさを考え母子同時登園や、生活リズムをどう作っていくか、集団保育で子どもと子どもの触れ合いを大切にしてみよう、母親の就労は社会でのつながり、社会での主張、子どもの幸福を考えていたことなどをお聞きしました。

乳児が集団で保育されることよ、発達を学ぶこと、子どもにとっての良さなど自分なりの振り返りをして、保育に当たりたいと思います。(匿名)

特別講座 I

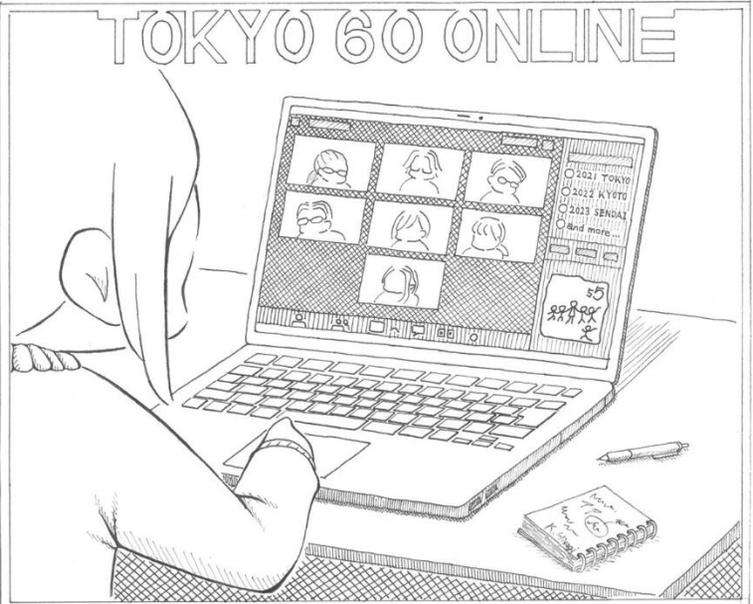
震災 映像で見る 10 年の歩みと 10 年経ったからこそ見えてくることがあるということ、そしてこれから風化させないために、また、原発問題などが二度と起こらないように現場レベルで日常的にできること、国や行政に対してすべきことなどをあらためて考える機会となりました。

(宮崎のりこさん)



ここで紹介したい感想が、まだまだたくさんありました！誌面の都合で、各分科会、特別講座共一つか二つの掲載とさせていただきます。
ニュースに掲載できなかった感想は、東京保問研会報上で紹介していきたいと思えます。

動画視聴数は……
記念講演 1099 回
特別講座 4641 回
たくさんのご視聴ありがとうございました！



集会 HP 作成について

今回、動画視聴用の HP については、汎工房の岡部さんが全面協力してくださったおかげで作成することができました。新しい HP を立ち上げることになり、サーバーの契約や、YouTube 以外の動画アップロードの方法など、何度も相談に乗って頂いたおかげで、素敵な動画視聴サイトを作成することができました。

オンラインといえども、それを作りあげるのは人間である、ということをおぼせて頂きました。心より感謝申し上げます。

東京集会実行委員長 田中浩司

